物理学C

剛体の運動

剛体の運動方程式

$$\frac{\overrightarrow{dP}}{dt} = \overrightarrow{F}$$

$$\frac{d\vec{L}}{dt} = \vec{N}$$

剛体の並進運動 を記述 剛体の回転運動 を記述

速度と角速度

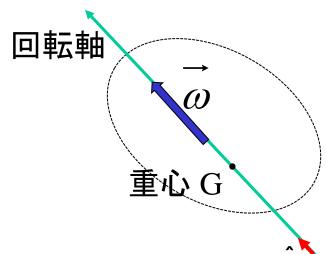
$$V =$$
 速度 = $\frac{$ 距離 時間

√ 速度ベクトル大きさ v向き 運動方向

$$\omega =$$
角速度 = $\frac{回転角}{$ 時間

 ω

角速度ベクトル 大きさ ω 向き 回転軸の 方向(r̂ 向き)



剛体の運動量と角運動量

$$\vec{P} = M\vec{V}$$

運動量 質量 重心の速度

$$\vec{L} = \vec{J\omega}$$

角運動量 慣性テンソル 角速度

速度を求めるのは質点 の場合と同様

角速度を求めるのは 一般には容易ではない

座標系

通常の慣性系(空間に設定)

慣性主軸系 (剛体に思索) 慣性テンソル J は運動と ともに変動

慣性テンソル Jは一定で 主慣性モーメント3成分

オイラー方程式

慣性主軸系(剛体に固定された座標系)での回転運動の運動方程式

$$\begin{cases}
I_{1} \frac{d\omega_{1}}{dt} - (I_{2} - I_{3})\omega_{2}\omega_{3} = N_{1} \\
I_{2} \frac{d\omega_{2}}{dt} - (I_{3} - I_{1})\omega_{3}\omega_{1} = N_{2} \\
I_{3} \frac{d\omega_{3}}{dt} - (I_{1} - I_{2})\omega_{1}\omega_{2} = N_{3}
\end{cases}$$

$$\frac{d\vec{L}}{dt} = \vec{N}$$

- 導出は省略
- 非線形方程式 であり、一般的 には難解
- 解いた後,元の 座標に戻す

以下では、特殊な場合に限定して考える。

剛体の運動

- 回転軸の方向が一定の場合に限定しての扱い。
- 変数:重心の位置x, 重心のまわりの回転 角 φ

$$F = M \frac{d^2 x}{dt^2} \quad N = I \frac{d^2 \phi}{dt^2}$$

剛体の運動

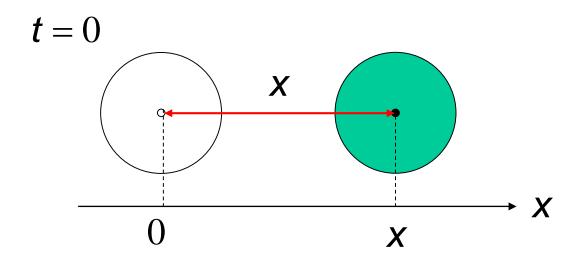
$$F = M \frac{d^2 x}{dt^2}$$
 $N = I \frac{d^2 \phi}{dt^2}$ 運動方程式

速度, 角速度

$$V = \frac{dx}{dt}$$
 $\omega = \frac{d\phi}{dt}$

$$K = \frac{1}{2}Mv^2 + \frac{1}{2}I\omega^2$$
 運動エネルギー

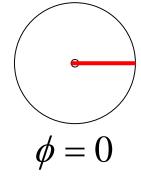
座標 x, φ

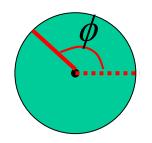


等速並進なら

$$V = \frac{X}{t}$$

$$t = 0$$

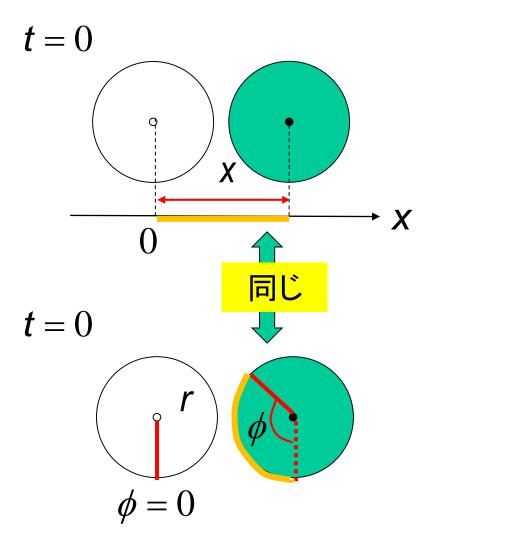




等速回転なら

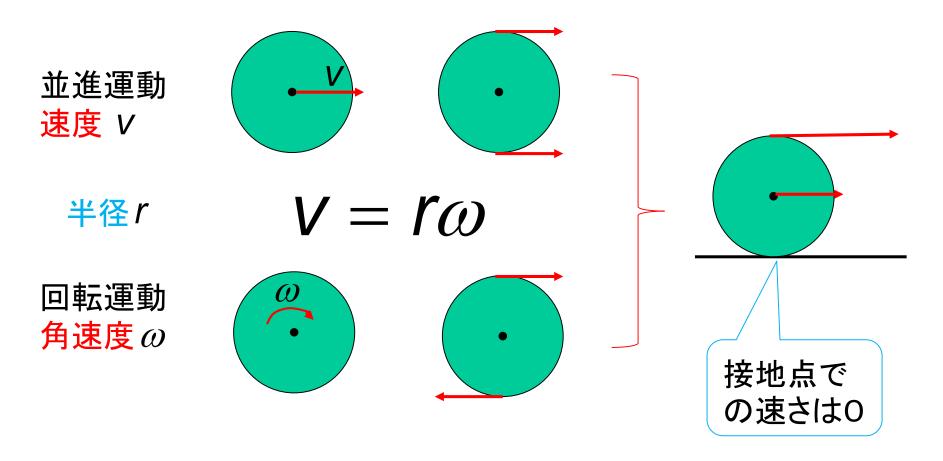
$$\omega = \frac{\phi}{t}$$

すべらずに、ころがる(1)

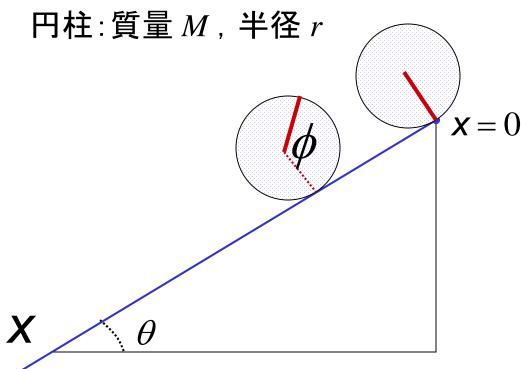


 $V = r\omega$

すべらずに、ころがる(2)



演習・斜面を滑らず転がる円柱

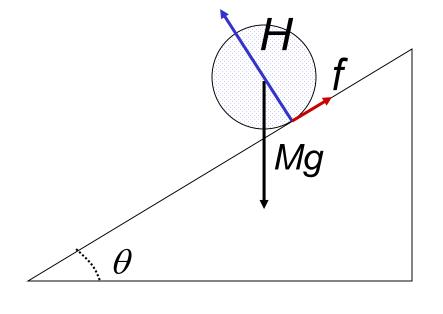


まず,座標を設定

滑らずに転げ 落ちる

$$x = r\phi$$

円柱:質量M, 半径r



働く力を調べる。

→ 重力, 抗力, 摩擦力

運動方程式

$$F = M \frac{d^2 x}{dt^2} \quad N = I \frac{d^2 \phi}{dt^2}$$

$$x$$
 軸方向に働く力 $F = Mg \sin \theta - f$

$$N = rf$$

$$Mg \sin \theta - f = M \frac{d^2 x}{dt^2}$$

$$rf = I \frac{d^2 \phi}{dt^2} \qquad X = r\phi$$

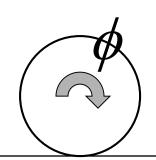
$$f = \frac{I}{r} \frac{d^2 \phi}{dt^2} = \frac{I}{r^2} \frac{d^2 x}{dt^2} = \frac{M}{2} \frac{d^2 x}{dt^2}$$

$$I = \frac{1}{2} Mr^2 \qquad Mg \sin \theta = \left(M + \frac{M}{2}\right) \frac{d^2 x}{dt^2}$$
加速度
$$\frac{d^2 x}{dt^2} = \frac{2}{3} g \sin \theta$$

転がる球

球 *M*, *r*

$$I = \frac{2}{5}Mr^2$$



 V,ω も図の向きが正

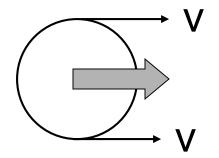
X

座標の定義

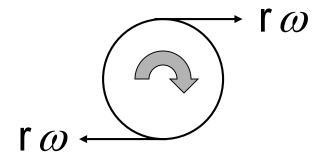
初期条件

$$t = 0 \implies \mathbf{V} = \mathbf{V}_0, \omega = \omega_0$$

並進運動の速度



回転(自転)運動の速度



 $V-r\omega$

は何を表すのか?

球の床面に接触する部分の床に対する速度を表す

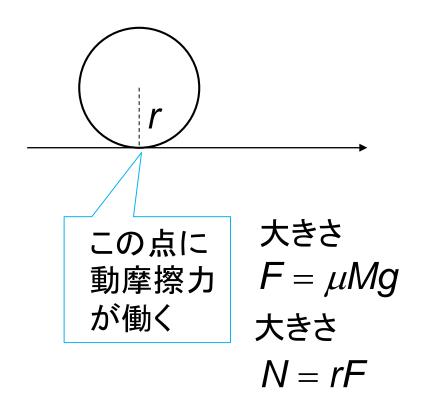
 $\mathbf{V} - \mathbf{r}\omega = 0$

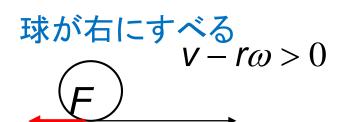
とは何を意味するのか?

接触部の速度O→「ころがっている」ことを意味する (このとき, v と ωの符号は同じ。)

運動方程式

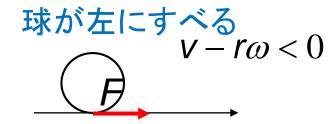
$$M\frac{dV}{dt} = F$$
 $I\frac{d\omega}{dt} = N$





摩擦力左向き

$$F = -\mu Mg$$
 $N = r\mu Mg$



摩擦力右向き

$$F = \mu Mg$$
 $N = -r\mu Mg$

1)
$$V_0 - r\omega_0 = 0$$

球はすべらずに転がっており そのま ま同じ速度, 角速度で運動する

2)
$$V_0 - r\omega_0 > 0$$

$$F = -\mu Mg$$
 $N = r\mu Mg$

$$V = -\mu gt + V_0$$

$$V = -\mu gt + V_0$$
 $\omega = \frac{5}{2r}\mu gt + \omega_0$

vは減り、 ω は増え、ある時点で $v - r\omega = 0$ となり、あとは、 1)と同じとなる。

3)
$$V - I\omega < 0$$

$$F = \mu Mg$$
 $N = -r\mu Mg$

$$V = \mu gt + V_0$$

$$V = \mu gt + V_0$$
 $\omega = -\frac{5}{2r} \mu gt + \omega_0$

vは増え、 ω は減り、ある時点で $V-r\omega=0$ となり、あとは、 1)と同じとなる。

$$\begin{cases} v = v_0 \mp \mu gt \\ r\omega = r\omega_0 \pm \frac{5}{2}\mu gt \end{cases}$$

$$t = t_c = \frac{2|v_0 - r\omega_0|}{7|\mu g}$$
 の時刻に $v - r\omega = 0$ となる

それ以降は一定速度で運動する。

そのときの一定速度

$$\mathbf{v} = \mathbf{v}_c = \frac{1}{7} (5\mathbf{v}_0 + 2r\omega_0)$$

この V_c は 最初の加速度 ω_0 が負で大きいと 負になりうる

初期条件により各種のケースがある



